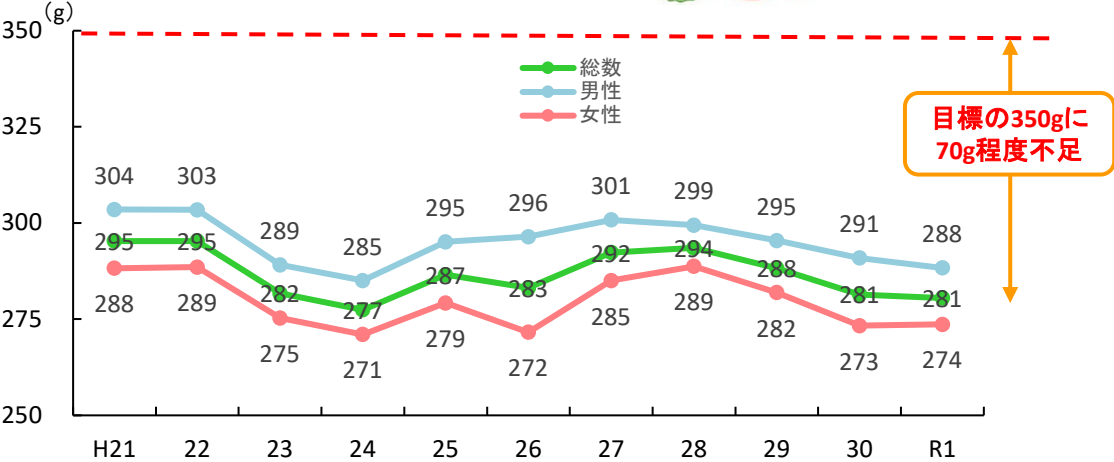


# 野菜・果物の消費動向

○ 成人1人1日当たりの野菜摂取量は280g程度(目標量350g)、果物摂取量は100g程度(目標量200g)で、多くの成人が目標に達しておらず、特に20~40歳代で不足が目立っている。

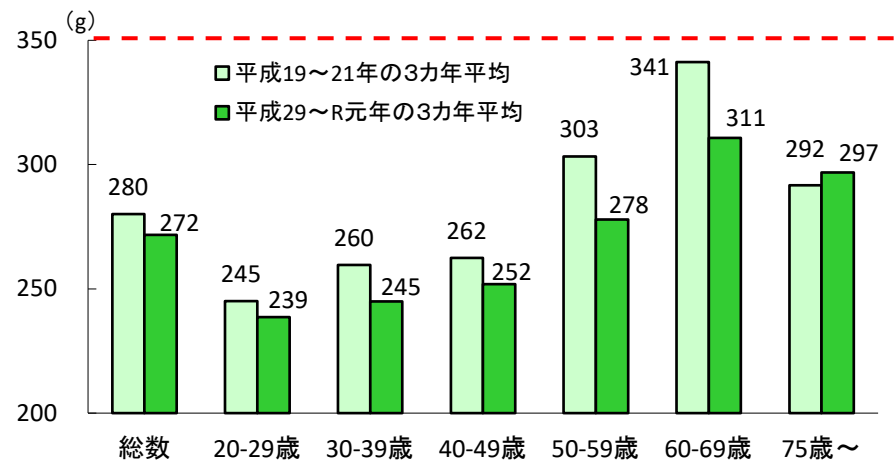
○ 10年前と比較すると、75歳以上を除くすべての世代で摂取量が減少している。

## ○ 1人1日当たり野菜摂取量の推移



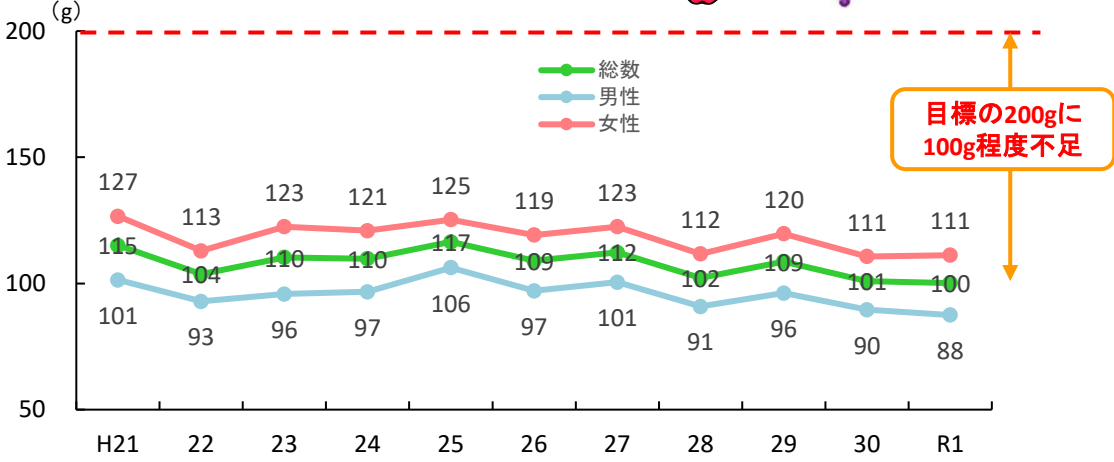
資料:厚生労働省「国民健康・栄養調査」注:野菜類であり、緑黄色野菜、その他の野菜、野菜ジュース、漬け物の合計値。

## ○ 世代別の野菜摂取量(10年前との比較)



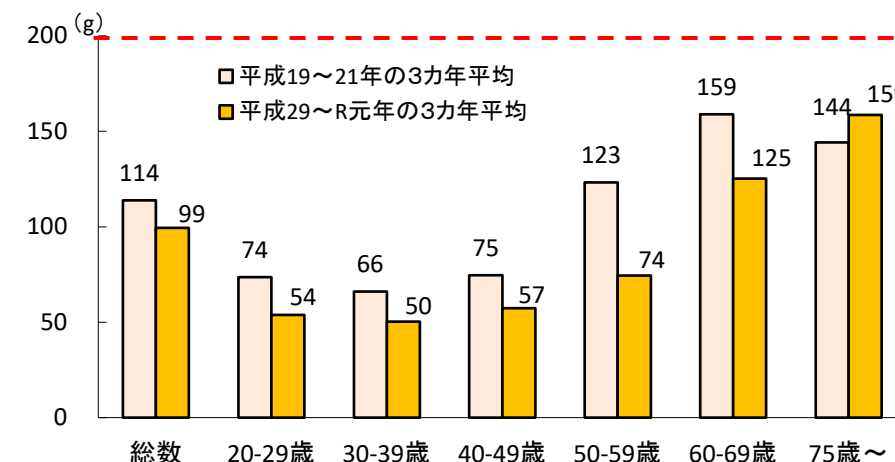
資料:厚生労働省「国民健康・栄養調査」注:野菜類であり、緑黄色野菜、その他の野菜、野菜ジュース、漬け物の合計値。

## ○ 1人1日当たり果物摂取量の推移



資料:厚生労働省「国民健康・栄養調査」注:果物類であり、生果、ジャム、果汁飲料の合計値。

## ○ 世代別の果物摂取量(10年前との比較)

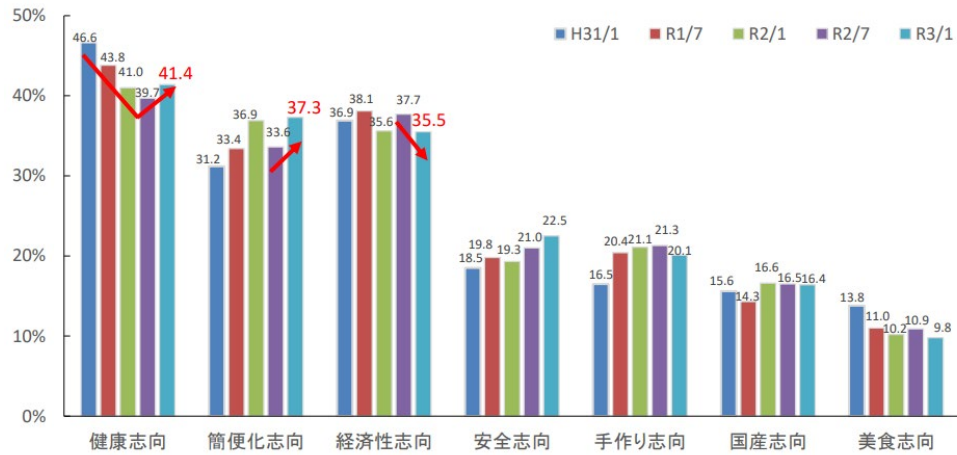


資料:厚生労働省「国民健康・栄養調査」注:果物類であり、生果、ジャム、果汁飲料の合計値。

# 消費者の食の志向と新型コロナの影響

- 消費者の食の志向は従来より、健康志向、経済性志向、簡便化志向であったが、健康志向がさらに増加。
- 新型コロナの影響により、健康と簡便化の志向が顕著。

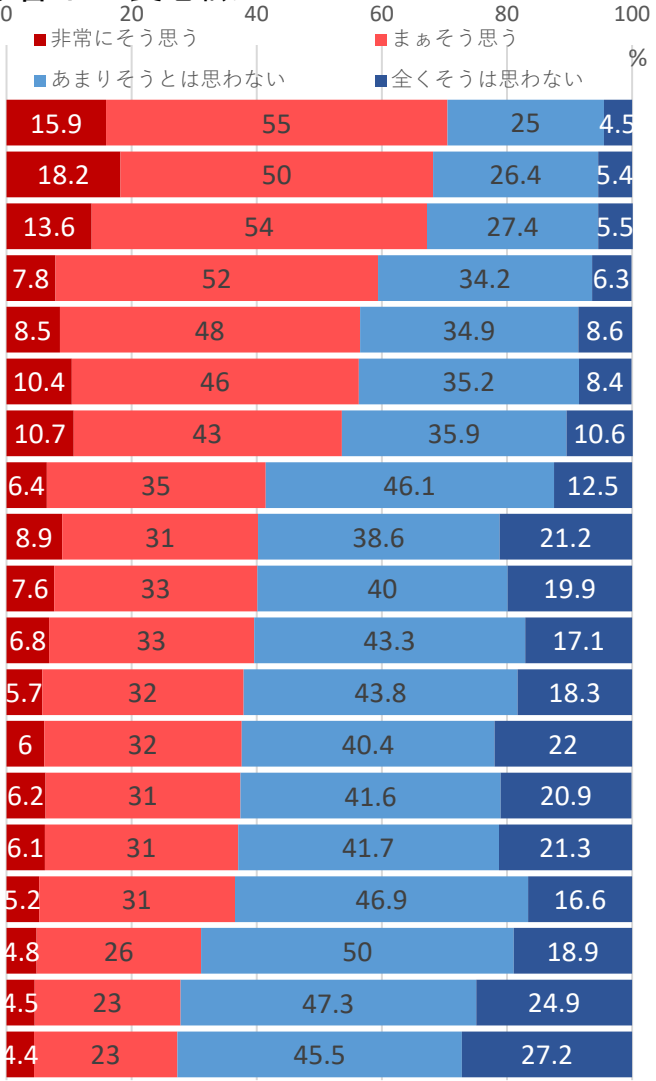
## ○ 消費者の食の志向



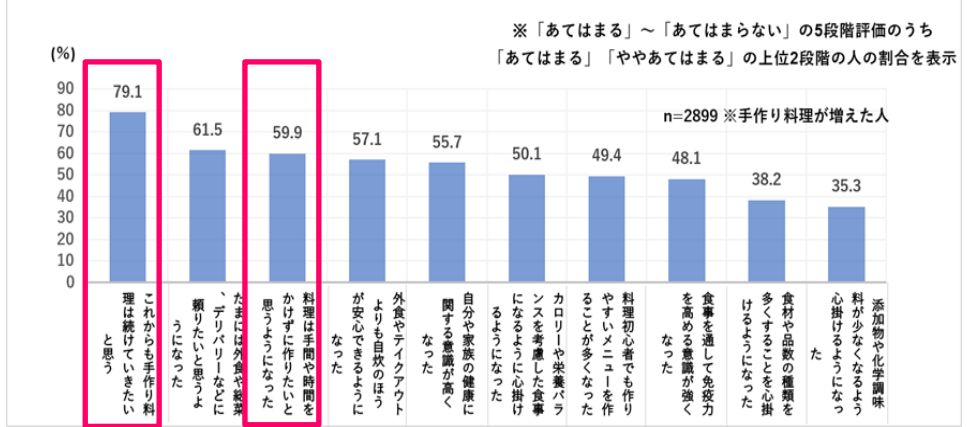
資料：日本政策金融公庫「消費者動向調査(令和3年1月)」  
注：全国の20歳代～70歳代の男女2,000人(男女各1,000人)を対象としたインターネット調査

## ○ 新型コロナウイルス影響下の食意識

- ゆっくり時間をかけて食事ができるような暮らしがしたい
- 食べることを楽しんでいる
- 食べ物や食材は安全性を最優先にして選びたい
- ふだんの食生活での健康は十分維持できる
- 食事には和風の料理をふやしていきたい
- 料理時間を短縮するために、料理を簡便化できる食品や調味料を使いたい



## ○ コロナ拡大後に変化した食への意識



資料：株式会社ヴァリューズ「コロナで変化した食生活と食に関する意識調査」  
注：国内20歳以上の男女10,007人を対象としたスマートフォンによるアンケート調査  
(実施期間：2020/08/31～2020/09/14)

資料：株式会社クロス・マーケティング「21年1月新型コロナウイルス生活影響度調査(食生活編)」  
注：全国20～69歳の男女2,500人を対象としたインターネット調査  
(実施期間：2021/01/22～2021/01/24)